



CQM(超短期経済予測モデル)

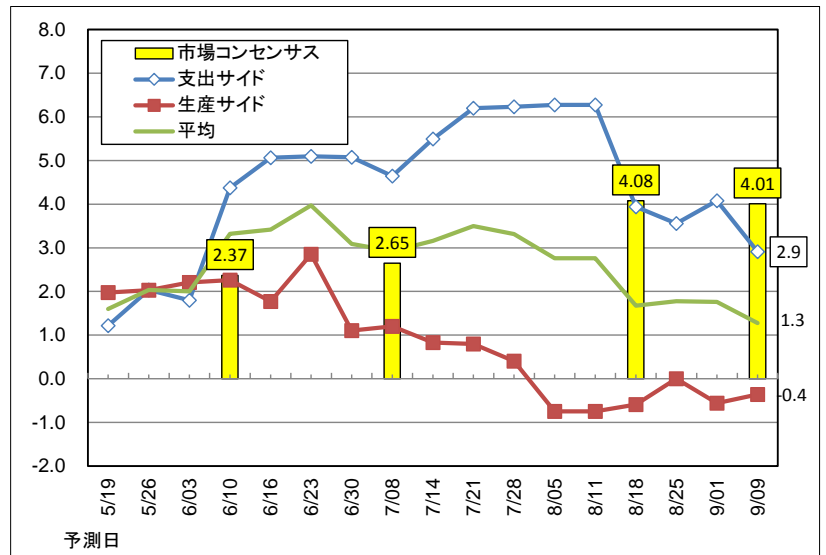
稲田義久(APIR 数量経済分析センター長)
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail:inada-y@apir.or.jp

日本経済(週次)予測(2014年9月9日)

ポイント

- ▶8日発表のGDP2次速報値によれば、4-6月期の実質GDP成長率は前期比年率-7.1%となり、1次速報値から下方修正。
- ▶7月の景気動向指数をみると、一致CIの3カ月移動平均は4カ月連続で前月比低下。7カ月移動平均も2カ月連続の悪化。内閣府は景気の基調判断を4カ月連続で評価を据え置いた。8月の結果が前月比悪化した場合、局面が変化すると判断される。7-9月期経済は低調な指標が多くなってきた。
- ▶今週(9/9)の超短期モデル(支出サイド)は、7-9月期の実質GDP成長率を前期比年率+2.9%と予測。先週から下方修正された。内需は拡大に転じるが、純輸出は幾分縮小する。
- ▶7-9月期の実質GDP成長率は2%台に減速してきた。市場コンセンサスは4%台である。天候不順により家計消費は低調が予想される。今週発表される7月の消費総合指数は注目材料である。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率
2014年7-9月期(%, 前期比年率換算)



<7-9月期の実質GDP成長率2%台に減速>

先週(9/1-8)に更新されたデータは、8月の食料安定供給、乗用車新車販売台数、景気ウォッチャー調査、7月の毎月勤労統計、景気動向指数、情報サービス業売上高及び国際収支状況である。また4-6月期GDP2次速報値が追加された。

9月8日発表のGDP2次速報値によれば、4-6月期の実質GDP成長率は前期比-1.8%、同年率-7.1%となり、1次速報値(同年率-6.8%)から下方修正された。また過去に遡ってデータが改訂された結果、1-3月期-0.1%ポイント、2013年10-12月期-0.3%ポイントそれぞれ下方修正されたが、7-9月期は+0.4%ポイント上方修正された。

7月の景気動向指数(CI:速報値)をみると、一致指数の3カ月移動平均は前月比0.40ポイント低下し、4カ月連続の下降。7カ月移動平均は同0.28ポイント下降し、2カ月連続の悪化。内閣府は景気の基調判断を、「足踏みを示している」と4カ月連続で評価を据え置いた。8月の結果が前月比悪化した場合、局面が変化すると判断される。

今週(9/9)の超短期モデル(支出サイド)は、7-9月期の実質GDP成長率を前期比+0.7%、同年率+2.9%と予測。先週の予測(+4.1%)から下方修正された。7-9月期は、内需が拡大に転じるが(前期比+0.8%)、純輸出は幾分縮小する(前期比-0.1%)。

7-9月期の実質GDP成長率は2%台に減速してきた。市場コンセンサスは4%台である。天候不順により家計消費は低調が予想される。今週発表される7月の消費総合指数の結果が注目される。

- ・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
- ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
- ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 contact@apir.or.jp 06-6485-7690